

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370101606		
法人名	医療法人 ももたろう整形外科医院		
事業所名	ももたろうの郷なかよし苑		
所在地	岡山市北区下足守2182番地		
自己評価作成日	平成29年3月4日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=3370101606-00&PrefCd=33&Version=
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート		
所在地	岡山県岡山市北区南方2丁目13-1 県総合福祉・ボランティア・NPO会館		
訪問調査日	平成29年3月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ゆったりとしたアットホームな雰囲気の入苑者様に寄り添い、四季折々の行事を取り入れ、施設内でも四季を感じて頂けるよう心掛けています。入苑者様の様子は毎月、日々様子を報告書にまとめて変化や生活の様子が細かく御家族様に分かっていたできるようにしています。普段の苑での様子を知ってもらうことにより御家族様との連携を深めています。職員は勉強会などを定期的に行い、入苑者様の健康状態を職員全員で把握し、より良い介護サービスを提供するよう努めています。また、常に医師や看護師と連携し支持を仰ぐことによりサポートも充実している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平成10年開設という岡山県では草分け的なホームに訪問させてもらった。前回の外部評価から2年経過する間に利用者の高齢化・重度化が進み、また入れ替わりもあり、このホームの特長でもあったリビングでの賑やかな創作活動の光景が今日はあまり見られなかった。管理者から2年前はまだ賑やかだったが、今は動きがおとなしくなったと説明があったが、それでも作品群が展示されているリビングはまるでギャラリーのようだった。3人でちぎり絵をしている人たち、ぬり絵をしている人の姿も見られた。28年度はホームで初めての看取りを経験し2名の利用者を見送った。そのうちの1名は医療が必要となり入院中であったが、本人も家族も最期はホームでという強い希望があり、医師・看護師・家族・職員が看取りに向けて、ホームでの受け入れについて話し合い、ホームに戻って10日後に静かに旅立った。その人の人生に最期まで寄り添い、心を込めたケアを提供し続けているホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができて (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念とグループホームの理念を事務所内に提示する事で職員全員への周知を図り理念を念頭に日々の業務に取り組んでいる。	理念に沿った具体的な目標を設定し、職員の意識統一を図ることを目標達成計画にもあけて取り組んできた。季節の行事に力を入れ、楽しみを持ってもらい、利用者へのびのびと自由に過ごしてもらっている。リビングに掲示されている作品群を見てもその成果が伝わってくる。	利用者も高齢化や重度化が進み、以前の様な創作的な活動が難しくなっているが、個別でも楽しめる活動を個々に合わせて取り入れる等の工夫をして、役割や生きがいにつながるような支援をしてあげて下さい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩や買い物に出掛け入苑者様が地域社会から疎遠にならないように、ふれあいの機会を設けたり地域の行事にも出向き交流を図っている。	町内行事の案内やお誘いもあり日頃から交流を図っており、散歩に行く地域の人との挨拶や声かけがあり触れ合いもある。月1回のアコーディオンの会を楽しみにしている人も多く、イベントには地域のボランティアの訪問があり、地域との交流を大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議など地域の方々が集まる機会の中で認知症についての理解や支援について説明したり、地域密着型サービスとしての理念や運営方針に関する理解を深めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の場において事業所の利用状況や活動状況の報告を行うと共に皆様からの意見や提案を伺い改善に努めている。	運営推進会議を2ヶ月毎に開催し、地域包括、町内会長・副会長、民生委員、婦人会等の参加を得て、活動報告や情報交換、意見交換をしている。災害時の避難場所や経路について議題にもあげ、町内会長より災害時には自宅の大型車を使用して下さいとの申し出もある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	月初めには入苑者の報告を行っていると共に、運営上の問題が起きた場合は、市区町村担当者と連絡を取り相談や指示を仰ぎ、利用者の生活に必要な情報を得ている。また、生活保護者の入居もあり、社会福祉等の協力体制も整えている。	市の実地指導は3年前にあったが、運営推進会議に地域包括の参加があるので日頃からホームの実情はよく理解してもらっているし、地域包括から利用者の紹介もある。市主催の看取りの研修に参加する予定にしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止マニュアルを作成し、職員への周知徹底を図り、苑内にて定期的に勉強会を行い、身体拘束を行わないための取り組みについて意見交換している。	玄関・勝手口の施錠はないが、安全の為門扉はロックしている。外に出たいという希望があれば職員と一緒に散歩や外出をしているので、現時点では身体拘束の対象となるような事例はない。職員は身体拘束のみならずスピーチロックについても気をつけている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に勉強会を行い、虐待に関する知識や理解を深めている。日々のケアで気づいた点などを職員間で考え共有できるよう心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要があるとみられる利用者様の御家族に対し、情報の提供や申請の為の支援を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結・解約など利用者様やご家族に十分に時間を取り説明し同意を得ている。また、質問や疑問などあれば、その都度、説明を行っていきたいと考えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年1回の家族会やご家族の面会時などに意見や要望を聞くように努め、意見や要望があれば職員間で共有し反映できるように努めている。	今年度はクリスマス会の後に家族会を開催し、3名の家族の参加があった。利用者の様子を伝えたり日頃の思いや要望を聞く等して交流をしている。毎月出している家族への手紙は生活の様子や本人の思い、リスク面等の実情を包み隠さず伝える内容になっていて、家族にとっても有り難い。面会時にはよく話し合うようにしている。	毎月、担当者が書く家族への手紙は、日頃の生活の様子や本人の状態がとてもよく分かり、良い事ばかりでなく実情もきちんと伝える内容になっているので、ホームと家族との信頼関係にも役立っていると思う。今後是非続けて欲しい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のカンファレンスを設けたり、日々の業務の中でも各職員の意見や提案を聞き、反映させるように努めている。問題があれば、その都度話し合いを行っている。	法人内異動があり、管理者が交代になったが、職員は勤続年数の長い職員が多く定着率が良い。管理者は職員の要望もよく聞いてくれ母体法人の理解もあり、休憩時間の確保も4年前から実現している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	苑内で出た問題点などは管理者から施設全体責任者へ伝えている。職員のストレスや疲労軽減のため、休憩を取り気分転換を図っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の能力に応じて研修に取り組める計画をしている。職場内においても勉強会の資料を作成したり、外部研修にも参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会へ入会している。事業所以外の方との交流の機会があれば参加しサービスの質の向上を目指している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新規利用者様には御本人はもちろん御家族からも話を聞き、生活状態の把握、御本人の心身状態や希望などを伺い、安心感を持って過ごして頂けるよう、信頼関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談に来られた時は少しでも不安を取り除けるよう、これまでの経緯やご家族の苦労などをゆっくり伺っています。また、話しやすい雰囲気作りを心掛け、ご家族の要望等に耳を傾けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御本人や御家族の思い、現在の状況把握を行い信頼関係を築く中で要望に耳を傾け入苑までの対応を検討するよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常の中で御本人が無理のない程度の仕事(洗濯たたみ等)をお願いすることにより必要とされていることを感じてもらい生活意欲向上に繋げている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	訪問時には、ご家族とゆっくり過ごして頂き良好な関係を築いて頂けるよう支援している。また、楽しい時間を共有してもらうよう季節のイベントへの参加もお願いしている。毎月の報告書に活動状況や生活の様子など報告している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や近所の方が来苑された時には楽しく過ごして頂けるよう場所や雰囲気作りに配慮し、関係が継続していくよう支援している。	以前よく行っていた喫茶店に家族と出かけた時、「お久しぶりですね」と顔を覚えていた店員が利用者に声をかけてくれた事もある。法事に出かける人もいて、家族の協力がよく得られている。職員はそれぞれの馴染みの関係をよく支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	問題が発生した時は必要に応じて職員が仲介し、お互いが納得できるよう話を傾聴、共感し安心して生活できるよう支援している。トラブルの原因を分析し事前の防止に努め、お互いの関係が円滑になるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設へ移られた場合でも、ご家族の了解の下、身体状況や精神状況または趣味や生活についても情報提供し新しい環境に早く慣れるよう支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入苑者様の今までの生活を大切にし御本人の希望や意見をお聞きし寄り添えるよう心掛けている。出来るだけ自己決定が出来るよう声かけを行っているが困難な場合は表情や、これまでの生活歴、御家族からの情報などから汲み取り安心した暮らしができるよう支援している。	日々の関わりの中で利用者の言葉や表情から思いを汲み取るように努めている。利用者の中には自己決定できる人もいるので、自分用の座布団が欲しいとの希望に応じて購入すると「こんな事こしかしてくれんよ」と笑顔で話しても喜ばれた例もある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御家族に許可を得て生活歴や御本人と関係のある方から情報を頂き、これまで過ごされてきた人生を理解し御本人の特徴を活かしたサービス提供に繋げていくようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態観察を行うと共に残存能力の発見に努め、入苑者様が生き生きと笑顔で過ごしていけるよう心掛け支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常生活の中で入苑者様の思いや要望を伺いながら状態に合わせ、御家族の要望も取り入れ職員皆でカンファレンスを行い介護計画を作成している。また、個別に担当を決めモニタリングを行いケアに活かしている。	アセスメントや日々の介護記録から課題や今必要なケアを抽出し、モニタリングして職員間で話し合い次回のプランにつなげている。ケアプランは本人・家族の意向を反映した具体的な目標や実現しやすい支援内容になっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子については時間ごとに記録し、職員間で情報を共有しケアの実践に活かしている。また、申し送り事項に記入し職員間で周知徹底を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	決められた業務の流れに限らず、その時の状況に合わせた対応を行い、御本人や御家族の多様なニーズに応じることが出来るように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の町内会に属し、回覧板等で情報を共有している。また、入苑者様や御家族の意向をもとに行楽地等の資源の活用を心掛けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事前に御本人や御家族の希望を伺い医療機関を決定し母体施設や協力病院、かかりつけ医との連携を図り安心して医療が受けられるように支援していく体制を整えている。	週1回医師が看護師同伴で往診に来てくれる。尿道カテーテル装着の人が2名いるので、定期的に泌尿器科を受診しており非常勤職員の看護師が同行している。法人の母体病院とは夜間や緊急時にはオンコール体制で連携している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の入苑者様の状態の変化を随時看護師に連絡し、必要があればDrと相談してもらっている。また週1回以上は勤務し状態把握に努め、アドバイスや必要な支援を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入苑者様が入院した際は定期的に訪問し情報の収集に努め退院時には医師や看護師、ケースワーカーとしっかり情報交換を行い安心して生活して頂けるよう取り組んでいる。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入苑時には苑で定めた重度化の指針や看取りに関する指針を説明し方向性を共有している。御家族に対し事業所としての対応や方針について説明し共有を図り連携して支援していくようにしている。	開設して18年になるが、昨年初めて2名の利用者の看取りを行なった。1例は医療が必要となり入院中の利用者の家族がホームでの看取りを希望し、医師・看護師・家族・職員で受け入れについて話し合った。職員も看取りについての勉強会をして万全の体制で臨み最期まで支援した。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事務所内に緊急時対応マニュアルをいつでも閲覧出来るように掲示している。また、看護師による緊急時の対応や病気についての勉強会を行ったり、必要時に医師や看護師と連絡を取り連携を図るようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災マニュアルを作成し、年2回の消防訓練や避難訓練を行い円滑な誘導が出来るように訓練を行い、運営推進会議で地域の方に内容の報告を行い協力を得られるようお願いしている。	運営推進会議の中でも、足守小学校は難しいので総社方面へ避難した方が良い。早く動けばもたろりハビリセンターに避難する等、地域の人と避難場所や避難経路について話し合っている。今後は地震対策が一番大切と思っている。定期的に設備点検をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入苑者様一人ひとりの性格を良く知り、その人にあった声掛けや対応を行い、これまでの人生を尊重しプライバシー保護に努め、御本人の尊厳を傷つけないよう心掛け支援している。	呼称は苗字にさん付けとし、言葉使いにも気を付けて一人ひとりを尊重をしようとしている。また、トイレの声かけの仕方、そして排泄の失敗時のケア等、その人の誇りや羞恥心への配慮には特に気を配っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様主体となる考え方を念頭に可能な限り御本人の思いや希望を働きかけ満足が得られるよう支援を行っている。また、意思疎通の困難な方においては表情や態度を読み取りながら意思表示できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入苑者様のペースに合わせ、レク活動、散歩、ドライブ等に参加して頂き、御本人の気持ちのがらない場合は無理強いすることなく御本人の気持ちを優先させ支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望があれば指定の理髪店が来苑され散髪を行っているが入苑者様の希望で行きつけの美容院があれば行けるように御家族と連携を図るようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事中の雰囲気や環境を整えたり、それぞれ食べやすい食事形態に配慮し楽しく食事が出来るよう支援している。また、出来る能力の活用を活かし食事前後の台拭きなどして頂いている。	法人母体病院の管理栄養士の献立表に基づき食材が来るのでホームで職員が調理している。ミキサー食、水分にトロミ等、食事形態は様々。月1回はおやつイベントがあり、パン好きでパンの朝食日を楽しみにしている人もいます。今日の昼食はうどん。麺類が好きと喜ぶ人もいた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事量をチェックし食事が摂れているか把握し水分量が少ない方もチェックしている。入苑者様の健康状態に合わせた食事形態を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声かけ・歯磨き・入れ歯はポリドントを使用して消毒し、自力で出来ない方は介助を行い清潔保持に努めている。また、歯科医と連携し随時、相談や往診を行ってもらえるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄状態に添って出来る限りトイレでの排泄が出来るように支援を行っている。失敗が減らせるように努めている。	全員が紙パンツにパットを使用し、紙オシメの人はいない。夜間用に居室にポータブルトイレを置いている人が数人。パットにこだわりがあり家族購入のりハビリパンツ・パットを使用している人もいる。排泄チェック表を見ながら一人ひとりに適宜、声かけ・誘導をして自立支援につなげている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動や水分補給をしっかりと促している。毎日の排便チェックを行い個々に応じて医師に相談し必要ならば投薬を行い便秘の解消に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日にはバイタルチェックを行い特変のない方は決められた時間(午前・午後)と分けてゆったりと入浴できる環境を整えている。また、こちらの都合で急がせる事の無いよう時間にゆとりを持ち会話を楽しみながら行える環境作りを心掛けている。	週3日を基本としているが、高齢の人、心臓疾患のある人等は負担を考慮して週2日としている。拒否のある人は数名。その中には洗髪嫌い、一番風呂にこだわる人等、それぞれだが職員があの手この手の対応を工夫しながら全員入浴出来ている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間良眠が出来るよう毎日の日課としてラジオ体操や筋トレの運動を取り入れている。また、御本人の体調に合わせて居室で休息してもらうよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服用リストを作成し、処方された薬などの記録をとり入苑者の服薬情報を職員間で確実に把握するように努めている。また、飲み忘れのないよう徹底し体調の変化があれば医師に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入苑者様一人ひとりが活躍出来ることを提供し楽しく生活できるよう支援している。また、ちぎり絵や歌、買い物、ドライブなど楽しみのある生活が送れるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入苑者様の希望を聞き、天気や状況により可能な限りドライブや散歩、買い物に出掛けたり、一人ひとりの気持ちや心身の状態に合わせ支援している。	利用者の高齢化と重度化に伴い、昨年まで出来ていたドライブに行き外食をするといった事も、外食が難しい人が増えてきた為、今年は花見・紅葉狩り等の外出支援のみになった。希望があれば職員とドライブや買い物に行く等の個別支援をしている。天気が良く暖かい日は散歩に行き気分転換をしてもらっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	苑で管理している金銭に関しては帳簿を付け毎月御家族に郵送している。また、御本人の希望や御家族の要望により金銭を所持されている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御家族や友人など苑にかかってきた電話は可能な限り御本人が直接会話が出来るようにしている。また、要望があれば電話をかける支援も行いコミュニケーションをとれるように努めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入苑者様と職員の共用の場として身近に感じ居心地良く過ごせ、職員がいつも見守る中で安心して過ごせる空間作りをしている。また、温度調節を行い快適に過ごして頂けるよう気をつけている。	リビング全体に折り紙・ちぎり絵等の作品が展示されギャラリーのようになっていて賑やかな雰囲気であるが、それも重度化に伴い年々作品数が減ってきているようだ。リビングでは利用者がちぎり絵やぬり絵をしていた。2つのテーブルやソファがほど良い間隔で配置され、ゆったりと落ち着ける空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う入苑者様同士で共有出来る場所や一人で過ごされる事を好む方の場所を確保し安心して過ごして頂けるよう支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には馴染みの物や家族の写真などを家族の協力の下に設置し入苑者様が不安なく安心して過ごせる空間が作れるよう配慮している。	居室は広く備え付けの家具やベッドの他に、それぞれソファや椅子等の馴染みの家具を持ち込んでもまだゆったりと過ごせる空間になっている。個々の症状によって物を置かないシンプルな部屋もあれば、家族からの手紙や写真を飾り家族の愛情がいっぱい感じられる部屋もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホールや居室など生活に関わる部分には、わかりやすく貼紙をしたり職員も声掛けを行い、場所が把握できるように配慮している。		